

ビオトープに産み付けられたニホンヒキガエルの卵＝姫路市立水族館



黒いつぶつぶ 春の息吹

姫路市西延末、同市立水族館のビオトープ（生物の生息空間）で、兵庫県のレッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されているニホンヒキガエル

が卵を産み、水辺に春の訪れを告げている。近くの林から産みに来ていて、今年で3年連続の確認となる。

ニホンヒキガエルは全

長約12センチと大型で、畿以西の本州、四国、九州に分布する。すみかとなる森林の荒廃や伐採などで生息環境が悪化し、その数が激減して

姫路 希少種ヒキガエル 産卵確認

同館のビオトープは2011年に造られ、14年に初めて産卵が確認された。今年はや暖冬の影響か過去2年より10日以上早く、2月10日に始まった。五つの卵塊で卵の数は約5万個。このうち、無事に成体になれるのは5匹程度とみられる。

飼育員の武田正義さん（40）は「こんな市街地に近い所にヒキガエルがいて、ビオトープを利用して、皆さんに生き物をもっと身近に感じてほしい」と話す。

ふ化は2月末に始まり、4月ごろには子ガエルとなって山に帰っていく。

（山崎 竜）

名前【 】

① このたび、姫路市立水族館のビオトープで卵が確認されたのは、何の卵ですか？

② 卵の数は、およそどれくらいありますか？

③ そのうち、成体になれるのは何匹程度でしょう？

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

NIEワークシート／小学高学年～中学生／国語、理科、朝NIE